Message from a Globalist ④

カナダの国際本部から援助を受けたボランティア活動によって2001年に設立されたホープ・インターナショナル開発機構。そのアジア地区のトップから国際生へメッセージをいただきました。

ローウェル・シェパード氏
HOPEインターナショナル開発機構
アジア・オセアニア地区ディレクター

涙なくして心にかかる虹はない

国際生のみなさんには「HOPE（希望）」という言葉を胸に刻んで欲しいと思います。思いやりのある世界市民は、単に世界に目を向けるだけではなく、世界がより良くあってほしいと信じることが必要です。昨今の経済不況や、環境、貧困などの問題は、簡単に乗り越えられるものではないでしょう。しかし、みなさんにはこれからの世界を変える力があります。あなた方一人ひとりが何かを変えることは全体から見れば小さなことですが、しかし少なくとも、誰かもう一人を変える力を持っているのです。数年前に盛岡の石割桜を見て、私はたいへん感銘を受けました。小さな種は、己が光を浴び、地に根を張るために大きな石を割り、そして育ったのです。この桜は、小さなことがやがて大きなことを成し遂げる象徴と言えるでしょう。

Native Americanの古い諺に、"You cannot have a rainbow in the heart without a tear in the eye.（涙なくして心にかかる虹はない）"という言葉があります。これから進む道の途中には、涙を伴うこともあるかもしれません。しかし、苦境に立たされた時の涙は、必ずあなた方を成長させ、心に虹を架けてくれるでしょう。みなさんの足跡は全て未来へと向いています。前を向いて胸を張り、世界市民となるために、Frontier Spirit を忘れずに、思いやりのある人間を目指してください。

Hot! Information

Yuichi Kurimoto Memorial Archive（栗本祐一先生記念館）2009年5月竣工！

H ARCHITECTS STUDIO INC.

この春、御器所キャンパスにある1号館が、記念館に生まれ変わります。記念館の中には、栗本祐一先生の生い立ちから学園創立にまつわる貴重な資料や物品が、年代ごとに展示される予定です。1号館はその名のとおり学園にとって最初の校舎であり、また、祐一先生自らが設計して建設した校舎として、当時、地元新聞紙にも大きく取り上げられました。その歴史的な建物の一部を残しながらの改修工事が順調に進んでいます。興味のある国際生は、記念館の見学を通じて、学園創立時のフロンティア・スピリットを感じてみては。

Pick up Feature Congratulations

卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます！

これから卒業生のみなさんは新しい世界へ旅立ちます、勇気を持って力強く前進してください。
名古屋国際は国際生OB OGのみなさんが世界中で活躍することを期待しています！

普通科中高一貫コースの曽我部暁子さんと普通科の高島瞳さんの2名に特別表彰「Yuichi Kurimoto Memorial Award」が授与されました。

▶アカデミックガウンは名古屋国際の課程を修了した証

PhotoStudio TSUKI

▲厳粛かつ温かい雰囲気の中での卒業式の様子

ジョージ校長
名古屋国際中学校・高等学校

私は、次のステージに進もうとしている皆さんに二つのことを提案します。一つは、いかなるときも世界が抱えている諸問題から目をそらさずに、真剣に議論をし合うということです。もう一つは、皆さんがリーダーシップをとることです。リーダーシップをとるためには、責任、賢明さ、思慮深さを持ち、他人から信用されようと努力することです。そして自分の中に「よいキャラクター」を育てるということです。
また、思いやりのある世界市民として、役割を果たすには様々な方法が存在します。まずは世界を意識する視点を育てることです。善悪の観点から世界が直面している問題を議論することを恐れてはいけません。リーダーであろうとする道を模索し続け、まわりの人間に配慮しつづけてください。また、世界中の人々と対話ができるように外国語の学習をしてください。そして最終的には、Frontier Spiritを身につけ、希望の力と勇気というものを理解しましょう。

I have outlined today what I believe you can do to become compassionate citizens of the world. You must cultivate a global awareness. You must be unafraid of engaging large world issues and talking about them in terms of right and wrong. You must seek to become leaders who have good character. You must also serve others. You must learn foreign languages so that you can have dialogues with people around the world. Finally, you must have a frontier spirit and recognize the power and the courage of hope.

Thinking about the Future

［ 国際生OB OGから現役国際生へ ］

Message to Students

「喜怒哀楽」の激しかった3年間

2008年度卒業生
現代国際学部 進学
高島 瞳さん

私の高校生活は、今振り返れば「喜怒哀楽」の激しかった3年間でした。楽しいことや嬉しいことだけでなく、悲しみも味わい、怒れることもありました。しかし卒業すると、やはり「喜」や「楽」の方が印象強いです。3年生の学校祭でのクラス合唱優勝と体育祭総合優勝は、クラスの皆で一緒の目標に向かって努力した結果で、達成感という満足も伴う感激でした。私個人に限って言えば、ロンドン・パリの研修旅行が「喜怒哀楽」の顕著な出来事でした。環境の変化についていけず、ストレスが溜まり、一緒に行動した友人たちとささいなことでぶつかってしまったりしました。食事も口に合わず、悲惨な思いもしました。

しかし研修旅行に行ったことで、私は海外についてもっと知りたい、英語ももっと喋ることができるようになりたい、と思うようになりました。それまで曖昧だった進路も、それらを専門に学びたいと、現代国際学部を目指すようになりました。3年生の選択の小論文ではユネスコの国際ユース作文コンテストにも取り組み、佳作という賞をいただくことになりました。こんなに「喜怒哀楽」を感じることができたのも、いつも私の傍に友人や先生、家族がいてくれたからでした。卒業という節目を迎えて改めて感謝の気持ちを伝えたいです。そして大学でもたくさんの「喜怒哀楽」を味わいながら、多くのものを学んでいきたいです。

Hatsuo HASEGAWA

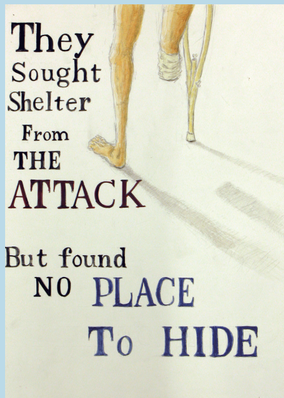
NAGOYA INTERNATIONAL JUNIOR HIGH SCHOOL MUSEUM

フロンティア美術館

「想いを作品にのせて」

今回から名古屋国際の生徒作品を紹介していきます。記念すべき第1回目は、中高一貫3年生鈴木祐斗君の作品です。この作品は1学期の課題「ポスター制作」で鈴木君自身が問題提起をして生まれました。

「世界にはまだまだ戦争・紛争が絶えない。自分たちの今ある状況がいかに恵まれているか感じてほしい。一人ひとりが、自分に何ができるか考えて行動に移すこと、それが平和につながる第一歩だと思う」との想いが制作のきっかけでした。生々しさを出すために、あえて足だけの表現にとどめ、余白を上手く活かすあたりは、とても中学3年生とは思えない見事な表現力です！次回はどんな作品が紹介できるでしょうか。フロンティア美術館長もみなさんの力作を期待しています。



ジョージ校長の映画名セリフ集 Great Dialogue from the Movies

"Gentlemen, you can't fight in here! This is the War Room."

（諸君、ここで争いごとはいけません。ここは戦闘司令室ですよ。）

今回は、高い評価を得たスタンリー・キューブリック監督の映画"博士の異常な愛情（1964）"からのセリフです。この映画の中で、妄想癖のあるアメリカ空軍基地司令官（彼は水道水にフッ素が入っているのはアメリカ人の"貴重なる体液"を搾取し汚そうとする共産主義者の企みだと信じている）が、ソビエト連邦への核攻撃の指令を出してしまいます。大統領はこの攻撃許可を与えていなかったので、すぐに攻撃機を呼び戻そうと試みます。ペンタゴン（米国国防総省）の戦闘司令室では、空軍将軍バック・タージッドソン（ジョージ・C・スコット）が大統領（ピーター・セラーズ）に状況を説明し、ここは全力で核攻撃を行うべきだと主張します。しかし大統領は緊迫した状況をなんとか打開しようとソビエト連邦大使（ピーター・ブル）を司令室に呼びます。タージッドソン将軍は激怒し、ソビエト大使連邦大使が偵察に来たと思い込んで大使に襲いかかります。その騒ぎを大統領は上の有名なセリフで鎮めます。

映画は攻撃機の一機が撤退の指令を受けそびれるという、不気味な終末を迎えます。機は搭載した爆弾を投下し、それによってソビエトの"人類滅亡最終兵器"が起動します。最後は、第二次世界大戦中に流行った名曲「また会いましょう」にのせて世界中で核が次々と爆発するシーンで終わるという印象的なものです。

"博士の異常な愛情"は4つのアカデミー賞にノミネートされ、アメリカ映画協会選定のベスト30映画の1つになっています。

This famous line comes from the Stanley Kubrick' s highly regarded film Dr. Strangelove（1964）. In the film, a delusional commander of a U.S. Air Force base, believing that Communists are seeking to sap the "precious bodily fluids" of Americans with fluoridated water, orders a nuclear attack on the Soviet Union. The President has not authorized this attack and immediately attempts to recall the fighter planes. In the War Room at the Pentagon, Air Force General Buck Turgidson（George C. Scott）briefs the President（Peter Sellers）and advocates a full-scale nuclear attack. The President, however, admits the Soviet Ambassador（Peter Bull）into the War Room in an effort to defuse tensions. Turgidson is livid. He believes that the Soviet Ambassador is spying and attacks him. The President breaks up the fight by uttering the famous line above. The film ends ominously, with one of the fighter planes failing to respond to the recall code. It drops its bomb, which triggers the Soviet Doomsday Machine. The final scene features a barrage of nuclear explosions accompanied by the famous World War II song, "We'll Meet Again". Dr. Strangeleove was nominated for four Academy Awards and is listed as one of the best thirty films of all time by the American Film Institute.